

2015年度(平成27年)事業報告

自：2015年1月1日 ～ 至：2015年12月31日

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

I. 基本方針

スペシャルオリンピックス日本(SO 日本)のビジョン体系に基づき、2015年度は以下の方針で事業を実施した。

【2019年に向けたSONのミッション、ビジョン、ゴール】

<ミッション>

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。

<ビジョン>

スペシャルオリンピックスは、我が国における障害者スポーツ推進の一翼を担うために他の団体とも密に連携し、また、各地区組織に根付いた全国的な運動となることを目指す。

<ゴール>

- 組織基盤の構築：ビジョン体系の共有、SO 日本全体の組織としての能力強化、SO 活動を地区に根付かせる
- リソース獲得のための対外アプローチ強化：認知・理解度の向上、資金調達、ボランティア基盤の強化
- 活動の質的向上と量的拡大：スポーツプログラムの充実、アスリート数の増加

II. 大会の開催・奨励

1. 2016年SO日本冬季ナショナルゲーム・新潟 開催準備

2016年2月の開催に向け、主管地区であるSON・新潟が主体となり実行委員会を設立、準備活動を開始した。会場との折衝、競技役員や競技備品などの必要な準備に加えて、広報活動も積極的に行った。

<実行委員会事業>

- ・ 記者説明会の実施(2月)
- ・ テレビ、ラジオ、新聞への露出(2月以降)
- ・ 大会サイトの開設
- ・ 採火式・分火式・県内トーチラン
- ・ 参加選手団 代表者向け現地説明会
- ・ 県内各種イベントへのブース出展

2. 2015年第2回スペシャルオリンピックス日本 全国バスケットボール大会開催

スペシャルオリンピックス日本の単一競技の全国大会として2回目の開催となる本大会は、前回は上回る全国22の地区組織から322名のアスリート・パートナー・コーチが参加した。

また、今回全国大会としては初めてユニファイドスポーツの種目を実施したことによって大会参加者だけではなく観客も間近にプレーを見ることができ、ユニファイドスポーツの意義を広く知らせることができた。

開催日：平成27年(2015年)9月18日(金)～20日(日) 3日間

※18日(金)は個人技能競技を実施

会場：広島サンプラザ(広島市西区商工センター三丁目1番1号)

宿舎：広島サンプラザ並びに広島市内のホテル

実施種目：チーム競技 シニア男子(女子の編入も可)、ユニファイドスポーツ、個人技能競技

参加者数：アスリート・パートナー234名 / コーチ88名 / のべボランティア480名 合計 802名

Ⅲ. 国際大会派遣

1. 2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス

SO 日本選手団の派遣に際し、参加するアスリートの充実したパフォーマンスのための支援と、長期間の集団生活や異文化経験、国際交流のための準備を数回の合宿を通じて行った。また、大会では各競技におけるルールの解釈や競技会運営方法についての情報を収集した。今後の国内における競技会開催や競技普及に活用する。

開催・派遣期間：平成27年(2015年) 7月21日(火)～8月4日(火)

＊21日出発前に選手団結団式を実施

ホストタウンプログラム：7月21日～7月24日

開会式：7月25日(土) / 閉会式：8月2日(日)

開催地：アメリカ合衆国カリフォルニア州 ロサンゼルス

参加者：164ヶ国より

アスリート 6,500名 コーチ・役員 2,000名 ボランティア 30,000名

ゲスト 5,000名 観客 500,000名

日本選手団：アスリート 77名 パートナー 6名

役員(団長:大和田SON理事)・コーチ 35名 **計 118名 派遣**

開催競技：25競技を実施 / 日本選手団は11競技に参加 ※以下日本選手団参加競技

・水泳競技 ・陸上競技 ・バドミントン ・バスケットボール ・ボウリング

・サッカー ・ゴルフ ・体操競技 ・卓球 ・テニス ・バレーボール

その他イベント：ホストタウンプログラム、ヘルシーアスリートプログラム、ユニファイドスポーツ体験
ヤングアスリートプログラムなど

【結団式の開催】

渡航前に東京都内を会場とし、選手団から大会に向けての決意表明を行い、また来賓や多くの参加者から激励の言葉を頂いた。

開催日程：平成27年7月21日(火) 11:00～12:30

会場：スターライズタワー 5階

来賓を含めた来場者：400名 メディア取材:全国主要テレビ、新聞社 24社出席

Ⅳ. SOムーブメント促進

1. 地区組織の認定及び更新、設立支援

平成27年3月 スペシャルオリンピックス日本第1回理事会にて、岩手・茨城・福井が地区組織として認証され、4月までに正式に設立した。これによって全国47都道府県にSO活動を根付かせることができた。

2. 地区組織強化支援事業

全ての地区組織が設立したことを受け地区組織に対する支援事業の力点を設立支援から組織強化支援に移行した。

SO日本及び全地区組織の基盤強化の一環として以下の事業を実施した。

- ・ビデオ会議を用いた選抜地区組織の強化支援

自己推薦と地区委員会による選考を経て選抜した3地区組織(SON・岩手、SON・秋田、SON・茨城)を対象に、計5回のビデオ講座を実施した。各地区組織からは組織運営の実務に関わるメンバーが複数名

参加し、良質な地区組織運営につながる知識拡大と意欲向上が図られた。各講座は 2 時間で以下をテーマとした。

第 1 回 組織の構成・機能とガバナンス(責任・権限と意思決定方法)

第 2 回 NPO 法人の会計

第 3 回 事業の計画と円滑な運営～SON・東京の経験から～

第 4 回 ファンドレイジング(資金調達)および説明責任

第 5 回 まとめ(振り返りと次年度の活動に向けたディスカッション)

・ 地区組織情報共有システムを活用した情報交換

インターネット上の会員制掲示板の管理運用を行った。

2. 地区連絡協議会、全国事務局長会議、ナショナルミーティング

地区連絡協議会及び全国事務局長会議、ナショナルミーティング等を通じて、地区間のつながりを深めるネットワーク創りの場を提供し、同時に、地区にとって効果的な活動事例や運営・事業推進に関する情報共有を図った。

<地区連絡協議会>

SO 日本のビジョンについて詳細な説明を行うとともに、SO 日本の主要事業および実施体制について包括的に紹介することで、地区組織の代表者における SO 日本の事業に対する理解を促進した。

3月28日(土) 会場：株式会社アライヴン セミナールーム 46地区77名参加

<全国事務局長会議>

地区組織の代表者に、新たに作成した地区組織自己評価基準(下記 3 参照)の趣旨説明と現状の分析結果報告を行うことで理解を促進した。また、地区委員会で検討すべき優先課題について意見交換を行った。

3月29日(土) 会場：日本アムウェイ合同会社 3階会議室 47地区57名参加

<ナショナルミーティング>

11月7日(土)・8日(日) 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

42地区 195名参加(一般、SO 日本理事、スタッフ含む)

【アスリートストーリー発表会】テーマ：「スペシャルオリンピックスと新しいチャレンジ」

アスリート登壇者 14名

スポーツ以外でのアスリートの活躍の場の提供しながらアスリートの主体的なスペシャルオリンピックスへの参加を促すことを目的として実施。また各地区組織で予選会を開くことにより、地区組織における ALPs の普及および活性化の一助となった。

【ソーシャルインパクトサミット報告】

登壇者：室井慎太郎氏(アスリート / SON・山口)・岩崎潤氏(パートナー / SON・群馬)

世界大会・LAに併せ、7月23日～28日にかけて開催されたソーシャルインパクトサミットに派遣した代表者による報告を行った。期間中のリーダーシップトレーニングの様子や学んだことについてスライドを使用して紹介。現地での英語のスピーチも実演し、ユニファイドのペアで練習をした成果を多くの関係者の前で披露した。また、各自のユースアクティベーションのプロジェクトの今後の予定について報告した。

【ALPsサミット】テーマ：「アスリートによる SNS を使った情報発信」

参加者：アスリート 33名・支援者 30名 計 63名

前半はインターネットとは何か？ SNS とは何か？ について注意点なども含め説明。

後半は SNS に興味がないグループと興味があるグループに分かれ、それぞれグループワークを行った。Facebook のアカウントを作成し、当日の参加者同士で写真をアップし「いいね」をしてみる等、新たな交流が生まれた。

【ファミリーサポートネットワークサミット】

前半は HAP 研修会参加者と合同で、SO 日本 HAP 委員長高橋先生によるヘルシー・アスリート・プログラム (HAP) についての講義、後半は「SO 活動におけるファミリーの役割」をテーマに、5 月にシンガポールで開催されたファミリー・リーダー・サミットに参加した SON・福岡の古川直美さんが参加報告を行った。その後、ブロックごとにファミリーの役割についてのディスカッションを行った。

【HAP研修会】参加者:6名

前半はファミリーサポートネットワークサミットと合同で、SO 日本 HAP 委員長高橋先生によるヘルシー・アスリート・プログラム (HAP) についての講義を行い、知的障害のあるアスリートの健康のために、本人及びファミリー、コーチ、介助者などへの啓発活動の重要性について理解を深めていただいた。

後半は、実際に各地区組織で HAP を実施するための方法論についての研修を行った。長年地区組織で健康診断を実施している地区の事例なども御説明いただくなど、ベストプラクティスの共有の場ともなった。

【調査研究分科会】参加者:9名

SO 地区活動の現状発表及び情報を共有しながら、各地区組織の課題や今後の展望について意見を交換した。調査研究委員会としては、事務局責任者やファミリー、コーチ等の現場の声を聴くことができ、今後の調査研究につながる貴重なヒアリングの機会となった。

【ユースアクティベーションサミット】参加者:50名

名寄市立大学の SO サークル、東洋大学志村ゼミでの活動について紹介頂き、ユースアクティベーションの特徴である「企画段階からアスリートが参画することが必要」であることを参加者と共有した。

また、様々な地区・年齢が混じったグループでのワークショップを実施し、ユースアクティベーションを地区組織で実施するために、それぞれの立場でどのような活動のサポートができるのかを考え、共有しあう機会となった。

3. 地区組織自己評価基準の策定および運用

SO 日本のビジョンを詳細に具現化した約 30 項目の地区組織自己評価基準を、地区組織の総意を得て作成した。3 つの発展段階ごとの姿を例示したこの自己評価基準に照らして各地区組織が内部点検を行うことで、SO 日本のビジョン及び活動方針が地区組織に共有され、国内の SO 活動の一体性が確保されるとともに、地区組織における活動の進達度を SO 日本が把握することができる。年度終了後に評価を実施する。

4. 地区委員会およびブロック連絡協議会の開催

<地区委員会>

6 ブロック代表者と SO 日本の地区担当理事が出席する地区委員会を、ビデオ会議を用いて毎月開催し、年間を通じて設定した議題および時宜にかなった議題について、意見交換や意思決定を行った。これにより、SO 日本が計画する事業案に対して、事前に地区組織の評価を確認できることで、事業を地区組織の実情により適したものに改善することができた。また、SO 日本の事業についてブロック代表者が理解を深めることができ、ブロック内の地区組織への情報展開・理解共有が図られた。

<ブロック連絡協議会>

ブロック内の地区組織の事務及びスポーツプログラムに関する代表者が出席するブロック連絡協議会の会議を、半年に 1 回全ブロックにおいて開催し、SO 日本が提示した議題やブロック内の地区組織が共有する課題について意見交換を行った。これにより SO 日本と地区組織、並びに地区組織間の円滑なコミュニケーションと、知識・ノウハウの共有が図られ、相互の情報共有と地区組織の現場における活動推進力が強化された。

北海道・東北ブロック	: 9月5日	関東ブロック	: 11月8日
東海・北信越ブロック	: 11月28日	近畿ブロック	: 12月19日
中国・四国ブロック	: 10月10日	九州・沖縄ブロック	: 12月6日

V. 指導者養成及びボランティア育成

1. 指導者養成

ボランティアコーチの育成と既存トレーナーのレベル及びスキルアップを目的とし、各種研修事業を開催した。

- ・ コーチクリニック(ボランティアコーチの育成) : 104 回開催(37 地区) / 参加者 2,873 名
- ・ 認定コーチ研修会(認定コーチのスキルアップを図る勉強会) : 6 回開催 / 参加者 285 名
- ・ コーチアカデミー(コーチ向けスキルアップ研修会) :
 - オープンウォータースイミング 日程 3月14日(土)~15日(日) 参加者 10名(8地区)
会場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター / アメリカンスクール・イン・ジャパン
 - フロアホッケー 日程 12月6日(日) 会場 : 昭和女子大学 講師を含む参加者 34名(9地区)
- ・ 全国トレーナー連絡協議会(トレーナーのスキルアップ研修及び情報交換の連絡会議) :
6月27日(土)~28日(日) 会場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター
参加者(トレーナー・競技部会関係者) 72名
- ・ トレーナーの認定 : スポーツトレーナー 7名、ローカルトレーナー 3名
- ・ その他 : コーチクリニック等の修了証の発行、認定コーチ証発行(600 枚)

2. ボランティア育成

SON・徳島での開催を予定していたが、会場と講師の日程調整が整わず開催できなかった。

3. スポーツプログラム委員会全国会議

参加者 50 名 46 都道府県

各地区組織からスポーツプログラム委員会の代表者が出席し、スポーツプログラムに特化した SO 日本のビジョンと 2015 年度事業計画についての説明、SO 日本が提示した議題やブロック内の地区組織が共有する課題についての意見交換を行った。これにより SO 日本と地区組織における目標の共有が促進されたと共に、競技会運営等に関する知識・ノウハウの共有が図られた。

VI. 知的障害者の支援・育成

アスリートの多様なニーズを満たし、様々な年代の知的障害者の参加促進を図るためのプログラムやトレーニングを実施した。また、アスリートの生活の質を高めるため、ヘルシー・アスリート・プログラムの普及促進やファミリー活動を支援した。

- ① ユニファイドスポーツ® : ユニファイドスポーツの国内普及を促進するために、9月26日(土)のEKSデーに合わせて“ユニファイド”をコンセプトにしたイベントを一斉に開催することを全地区組織に呼びかけた。27地区でイベントを実施し約2,000名の参加があった。
- ② ユースアクティベーション : 知的障害の有無に関わらず、若い世代の人たちが主体性をもって、より良い社会環境づくりに向け、地区組織での活動拡大を支援する取り組み。10月にはSO国際本部から講師を招聘して研修会を行い、11月にはナショナルミーティングで学生によるプロジェクト発表会を実施した。またFacebookを活用しての活動支援を行った。
 - ソーシャルインパクトサミット:SO 夏季世界大会と同時開催。国内選考を経た世界各国・地域の代表者(ユースアクティベーションプロジェクトのプロジェクトオーナー)が参加した。SO日本からはSON・山口の室井慎太郎氏、SON・群馬の岩崎潤氏のユニファイドペアを派遣。両者は、国内のユースアクティベーションで活用できるリーダーのスキルアップのトレーニングなどを受け、また各国の代表者との交流を深めた。現在は各地区組織と連携を取り、地域内でのネットワーク・コミュニティづくりの為に活動を行っている。

- 2015年度ユースアクティベーション研修会 : 10月10日(土) ~11日(日) 11名
- ナショナルミーティングでの活動報告(サミット) : 11月8日(日)
- ※ 上記ナショナルミーティング欄で報告

③ 学校連携プログラム

- ・ 東京都立大田桜台高校 奉仕活動体験授業 (高校2年生 18名)
複数回授業内で、SOについての紹介・ボランティアとは何か・ミサング作りといった活動に加え、SO活動を応援するためにできることを話し合うなど、SOをより身近に感じられる活動を実施した。(5月7日、6月4日、6月18日、7月9日、9月3日)
- ・ 伊賀市立 大山田中学校 人権総合学習 (10名)
人権総合学習の一環として、事務局に来訪。事前学習ではユニファイドスポーツに興味があるという生徒がいたため SOの紹介だけでなく、ボッチャを体験。(生徒からはスポーツマンシップを大切にしながら、お互いを尊重して活動しているという話に感動した。アスリートも頑張っているから自分も同じように頑張りたい。という意見が聞けた。)
- ・ 杉並区立中瀬中学校 (各回 中学1年生 約100名)
SO体験会(公開授業の為、近隣住人も参観)、細川名誉会長による講演をおこなった。
- ・ 杉並区立天沼中学校
藤本理事 講演 (全校生徒、近隣小学校、学校関係者 約500名)
細川名誉会長 講演 (保護者・学校関係者 約100名)

④ ALPs(アスリートリーダーシッププログラム) : アスリート理事の育成やナショナルミーティングの運営に携わることで、アスリートの成長やさらなる活躍の機会を拡大する。ナショナルミーティング(11月7日)での発表に向けて、各地区組織では予選会を行った。

⑤ ファミリーヘルスフォーラム : 10月3日(土) 15名参加、11月8日(日) 51名参加の2回実施

⑥ ヤングアスリート及びファミリーサポートネットワークの普及 : 2歳半から7歳まで、SO活動に参加する前の知的障害のある子供たちを対象に、楽しみながら身体を動かすことで発達を促し、スポーツをする基礎を作ることを目的としたプログラム。

- コーチクリニックの開催: 福岡 36名、大阪 14名
- デモンストレーションの開催: 福岡、福島、大阪、奈良

VII. 広報・渉外・啓発活動

1. 広報・啓発

- ・ 「2015年SO夏季世界大会・ロサンゼルス」日本選手団派遣 結団式開催をはじめこの事業を通して全国に発信出来るメディア活動を展開した。

<メディア掲載>

全国放送テレビでの放送

- ・ 日本テレビ系「NEWS ZERO」、NHK「サタデースポーツ」、フジテレビ系「めざましどようび」
- ・ TBS系「Nスタ」、NHKニュース

その他新聞掲載 38社140件、雑誌やSNSでも発信を行った。

- ・ LA大会で初めてユニファイドスポーツにチーム競技として派遣したバスケットボールチームの記録映像を制作し、同時に企業・メディアへのリレーションを行った。Youtubeにも掲載等あらゆる方に見ただけの展開を行っている。

- ・東京マラソン、大阪マラソンを通して、ランナーへのPRをはかり積極的なイベント参画を行った。
 - 東京マラソンでは、SO 日本チャリティランナーの満足度向上を図りリピーターを増やした。
 - EXPO、大会当日に有森理事長が積極的に参加し応援することにより認知度、寄付増額につなげた。
 - 大阪マラソンでは、SON・大阪と協働しアスリートのラン参加、小島智子さんのチアダンスアカデミーとの沿道応援、ドリームサポーター森理世さんのイベント参加等PR活動を充実させた。
- ・「2016年SO日本冬季ナショナルゲーム・新潟」大会開催記者発表の開催準備等
大会サポーター安藤美姫さん、今井遥さん出席のもと大会メディア活動のスタートを行った。
- ・公式サイト運営、SNSでの情報発信

2. 資金調達(寄付・マーケティング)

- ・新規法人獲得並びに既存法人寄付の継続と支援拡大を行った。
 - 新規パートナー企業
 - トヨタ自動車(株)、三井住友海上火災保険(株) 2016年1月～パートナーシップ契約が決定
 - 既存支援企業からの支援、LA大会を機とした資金調達
 - (株)ユニクロ、(株)三菱東京UFJ銀行、メルリンチ日本証券(株)、ACCJ等
- ・SOの魅力やリソースを活かしたチャリティイベントの実施としてエールラン、チャリティトークショーを行った。
 - 「第5回エールラン in 横浜赤レンガパーク」
 - 参加ランナー:1,283名 ボランティア:197名 実行委員会:15名 (全てSONスポンサー企業社員)
 - 寄付総額 8,866,000円
 - *参加ランナー、ボランティア、寄付総額全てが前回は上回った。イベント自体の協賛企業が増加し、参加者の満足度も高く開催することが出来た。
 - 「丸の内女子会チャリティトークショー」
 - 寄付総額: 909,159円 参加人数: 214名 実行委員会:10名 (全てSO日本スポンサー企業社員)
 - *有森裕子理事長、北澤豪様、森理世様、山田玲奈様のトークそしてLA大会にユニファイドバスケットボールチームも登壇した。
 - *参加者、寄付総額ともに前回は上回った。
- ・LA大会でSO日本支援企業が現地で大会を応援してくださったことにより、SO活動の規模や国際的な活動理解と支援につなげることが出来た。

VIII. 調査・研究・情報収集

知的障害者スポーツの振興を図っていくために、継続的な調査研究事業を行うことは意義があり、本事業を担う専門委員会として、「調査研究委員会」を設置し、公開研究会として下記シンポジウムを開催した。

本シンポジウムでは、2014年発行した調査研究報告書「SO日本20年の検証」の調査研究にあたったメンバーが研究結果の一部を発表するだけでなく、スポーツ庁、日本障がい者スポーツ協会等国内の障害者スポーツに関係する有識者にもご発表頂き、知的障害者スポーツ全体の方向性や発展について模索すると共に、SO活動を通じたインクルーシブな社会創生への提言の機会となった。

名称：第1回公開シンポジウム『SON20年の検証と知的障害者スポーツのこれから』

日時：11月7日(土) 9時50分～12時10分 ※参加費無料

会場：国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟4階セミナーホール
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

参加者：130名

主な内容：

1. 基調講演 『障害者スポーツの振興について』
スポーツ庁 健康スポーツ課 障害者スポーツ振興室長 田中聡明氏
2. シンポジウム 『SON20年の検証と知的障害者スポーツのこれから』
※パネリストによる発表及び意見交換(発表順)
岩沼 聡一郎：「SO 活動身体的調査」 / SO日本 調査研究委員
田引 俊和：「SO 活動心理・社会的調査」 / SO日本 調査研究委員
中森 邦男氏：「日本における障がい者スポーツの発展」 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
野村 一路氏：「SOとINASの関係の中で」 日本体育大学 (知的障害者スポーツ連盟)
志村 健一(モデレーター)：SO日本 調査研究委員会委員長

IX. 他団体との連携

- ・ スペシャルオリンピックス国際本部、アジアパシフィックリージョナルオフィスとの連絡調整、会議・研修参加
 - * スペシャルオリンピックスアジア太平洋地域ファミリーサミット：5月9日～12日 / 日向野参加
 - * トットナムホットスパーフットボールコーチクリニック：10月23日～25日 / 森参加
 - * ヤングアスリート・ワークショップ：11月25日～11月28日 / 園部参加
 - * 広報研修会：12月2日～6日 / 宍戸参加
- ・ クーバーコーチングジャパンと共催事業開催
福島開催 9月13日(日); トレーニングセッション10名、指導者講習会 24名
千葉開催 10月24日(土); ユニファイドアカデミー19名、指導者講習会 20名
- ・ 他の競技団体等との連携及び連絡調整
- ・ 他の障害者スポーツ団体への理解促進、連携
日本障がい者スポーツ連盟 鳥原会長との面談

X. 助成

- ・ 地区競技会推進支援制度の実施：5ブロック / 6競技会 120万円助成
- ・ SOムーブメント推進事業への特別助成：SON・福島 300万円 / SON・福岡 200万円

VI. 会議開催等

<評議員会>

定時評議員会 日時：3月18日(水)14:00～15:20 場所：富士ゼロックス東京会議室

<理事会>

第1回理事会 日時：3月3日(火)18:30～21:40 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所
臨時理事会 日時：3月18日(水)13:30～16:15 場所：富士ゼロックス東京会議室
臨時理事会 5月27日(水) 書面決議

第2回理事会 日時：6月18日(木)18:00～19:35 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所
第3回理事会 日時：9月29日(火)18:30～21:10 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所
第4回理事会 日時：12月18日(金)18:30～20:30 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

<運営会議>

月1回開催：毎月第3木曜日 13:30～15:30 (原則)場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

<評議員選定委員会> 2月20日(木)15:00～15:30 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

<専門委員会>

【地区委員会】

月1回ビデオ会議システムを使用しての会議を開催した。

1月10日(土) 2月7日(土) 3月7日(土) 4月4日(土) 5月9日(土) 6月6日(土)
7月4日(土) 8月8日(土) 8月30日(土) 10月3日(土) 10月31日(土) 12月5日(土)

【スポーツプログラム委員会】

スポーツプログラム委員会正副委員長会議

日時：2月7日(土) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

日時：8月21日(金) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所